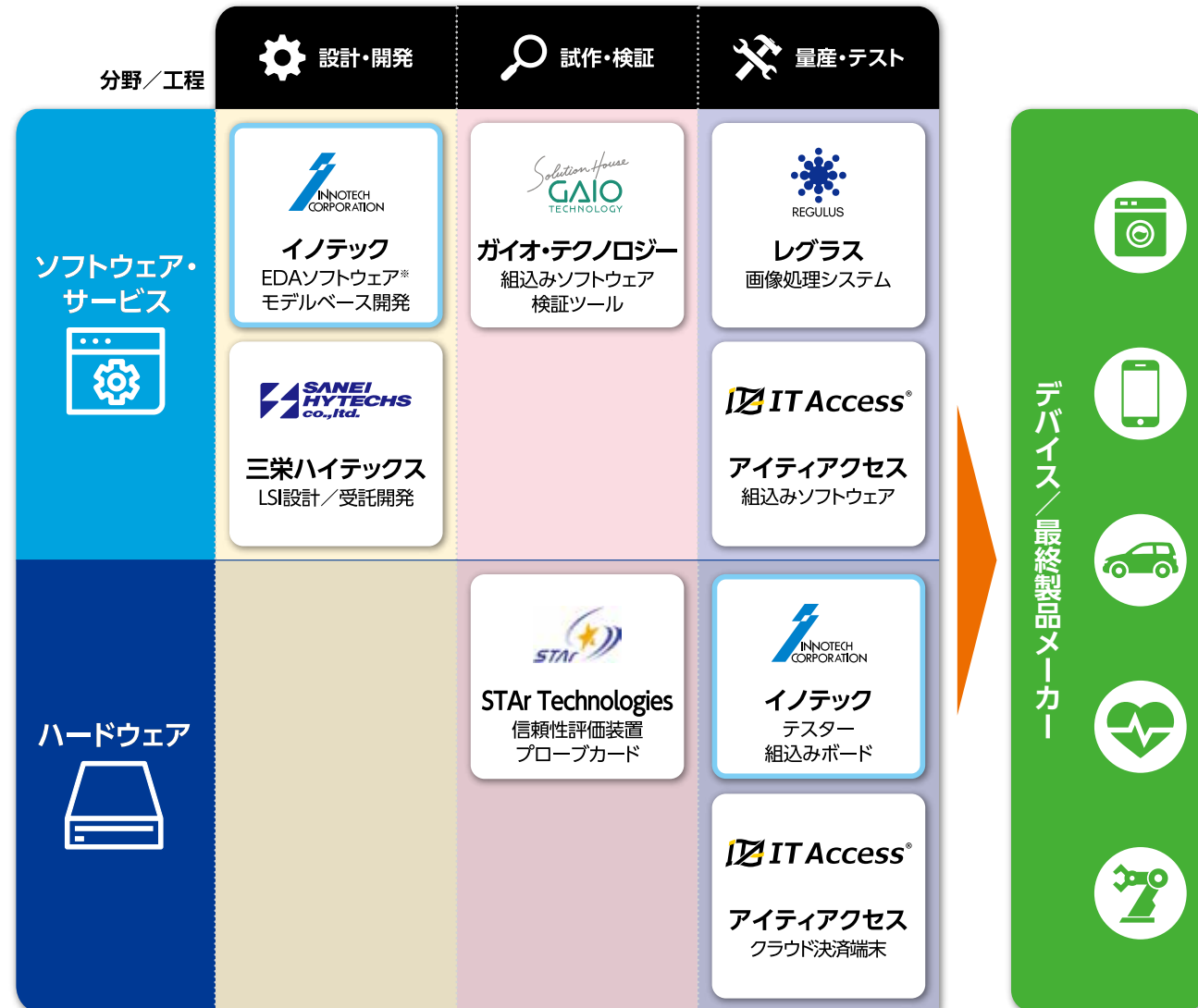




はじめに
イノテックグループのビジネスとは？

ハードウェア、ソフトウェア、そしてコンサルティングサービスを提供する総合プロバイダーとして、お客様の技術課題の解決に幅広く貢献します。



※ 半導体設計用ソフトウェア

株主の皆様へ

中長期的な成長に向けた施策を着実に実行していきます。

当第2四半期の経営環境や業績についてお聞かせください。

2019年度(2020年3月期)の第2四半期累計期間(以下第2四半期)における日本経済は、おおむね緩やかな回復基調が続いているものの、米中貿易摩擦の長期化や中国経済の減速が世界経済に与える影響など、依然として先行きが不透明な状況です。

こうしたなかイノテックグループの当第2四半期の業績は、ガイオ・テクノロジーやSTAr Technologies(以下STAr)が堅調に推移したほか、アイティアアクセスの新規事業であるクラウド決済システムの販売や、レグラスの自社製AIカメラシステム関連などの受託開発が売上に貢献しました。一方で自社製テスターは、半導体市況悪化の影響により大幅な減収となりました。

これらの結果、売上高141億86百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益6億19百万円(同11.0%減)、経常利益6億78百万円(同30.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益4億27百万円(同36.6%減)となりました。

▶ イノテックが目指すもの

- ▶ エレクトロニクス・ビジネスを通じて、人々の生活を豊かで快適なものにし、「未来社会に貢献」する
- ▶ 創造力を駆使、携わるエレクトロニクス業界の技術の進歩に寄与し、「不可欠な存在」になる
- ▶ 我々の真の事業は「問題を解決すること」であり、顧客に満足いただく労苦を惜しまない
- ▶ 先端技術に挑戦し続ける「パイオニア」になる
- ▶ 創造力を発揮できる会社の仕組みづくりに心血を注ぐ、「誇りの持てる」会社を実現する

代表取締役社長
小野 敏彦

通期の業績見込みや今後の戦略についてお聞かせください。

通期の業績については、期初に発表した予想を据え置き、売上高300億円(前期比0.7%増)、営業利益16億円(同18.2%減)、経常利益17億50百万円(同28.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益11億円(同26.3%減)を計画しています。主力である自社製テスターの販売が停滞していることから、当期は減益となる見込みですが、半導体市況は当期後半から徐々に回復基調となり、今後「5G」向けの需要も本格化すると見られます。

また中期経営計画の戦略についても、テストソリューション事業の中国展開や、アイティアアクセスのクラウド決済システムをはじめとする新規分野の収益貢献など、徐々に進展しています。株主の皆様には引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

▶ 配当金のご案内

中間配当につきましては、今後の事業展開などを総合的に勘案し、2019年11月7日開催の取締役会で決議いたしました。

1. 配当金.....1株につき**20円**
2. 効力発生日(支払開始日).....2019年12月9日



特集 ▶ なぜなに?“イノテックの事業戦略”を解説

活気づく世界の 半導体製造装置市場に 挑んでいく

身近な家電製品や自動車、産業用機器など、あらゆる機器がインターネットにつながっているIoT社会——その実現が間近に迫っています。2020年には次世代移動通信システム「5G」の商業サービスが開始され、自動運転も本格化していくと言われています。IoT社会の到来は、取り扱うデータ量を大幅に増加させるため、半導体デバイスメーカーは各種データを記録・保存するフラッシュメモリーの生産体制を増強していますが、課題となっているのは“検査工程の精度・効率の向上”。ここに、当社にとっての大きな“ビジネスチャンス”があります。

Q ▶ イノテックが扱っている半導体製造装置とは何？

A ▶ 半導体の品質検査に欠かせない「テスター」を製造しています。

テスターは、半導体製造プロセスにおいて、半導体デバイスに電気信号を流し、出力される信号が設計仕様どおりかを検査する装置です。

半導体のテストは、ウエハーから切断する前の状態のものを検査するプローブテストと、パッケージに封入され、完成した半導体デバイスの最終動作確認を行うファイナルテストに分類されます。

当社は、これらのテストに使用されるNAND型フラッシュメモリー用テスター「RETSET(レツェット)」シリーズを自社開発しています。現在、フラッシュメモリーはスマートフォンなどの電子機器に搭載されており、その搭載容量はカメラ性能の向上に伴い年々増加しています。また、データセン

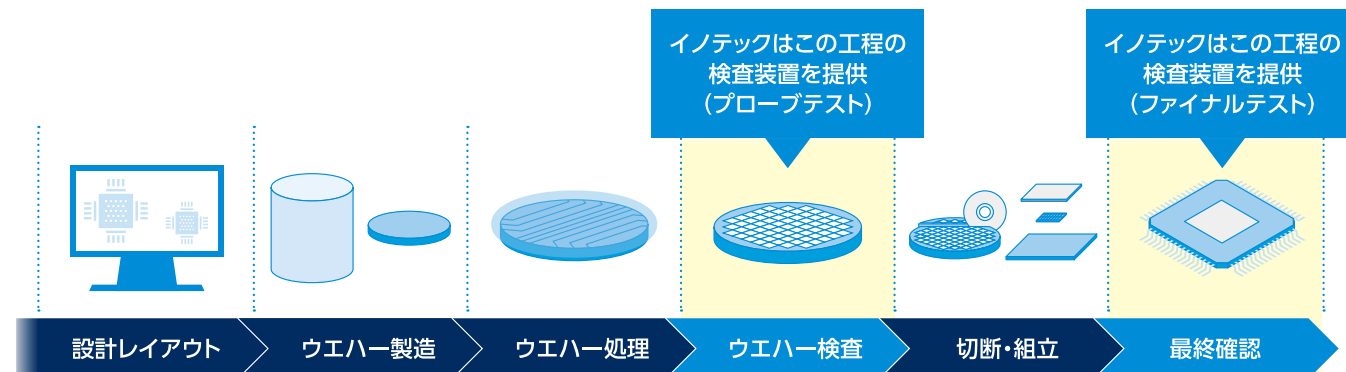
ター向けなど、HDDに代わる大容量記録デバイスとしてSSDの市場が拡大しています。当社の「RETSET」シリーズは、お客様が必要とする機能だけを組み合わせることで、小型軽量化、低コスト、低消費電力を実現し、お客様のニーズに合わせ最適な形にカスタマイズして提供しています。

また、CIS(CMOS Image Sensor)を始めとするイメージセンサー用のテスター「Polaris」シリーズも、開発時の特性評価からウエハーテスト、ファイナルテストまで、それぞれの用途に最適なプラットフォームを提供しています。



フラッシュメモリー用テスター「RETSET」

半導体製造工程とイノテックの製品



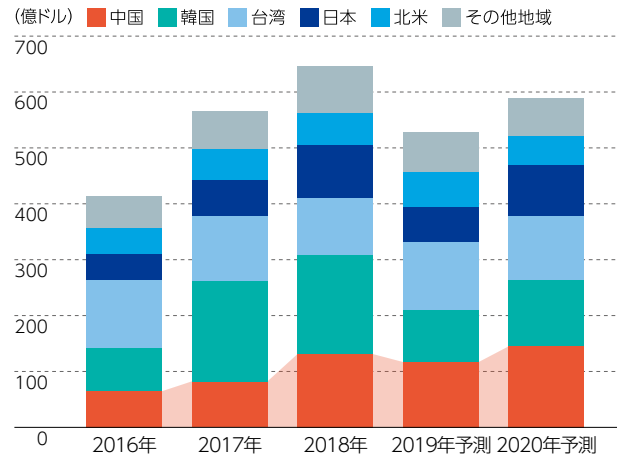
Q ▶ 半導体製造装置市場は、今後どうなる？

A ▶ 中国が牽引し、2020年にはプラス成長に転じる見通しです。

国際半導体製造装置材料協会(SEMI)は、2019年7月に「世界半導体製造装置市場予測」を発表しました。それによると、2019年の市場規模は足元の設備投資抑制や不確実性の増大などの影響もあって前年比18.4%減の527億米ドルと落ち込みますが、2020年は前年比11.6%増の588億米ドルに回復すると予測されています。

その要因を見ると、特に、中国はメモリー投資の新規プロジェクトなどが始動するため、2020年は市場規模の約25%を占める145億米ドルへの拡大が見込まれ、地域別では台湾を抜いて最大の市場になることが予想されています。

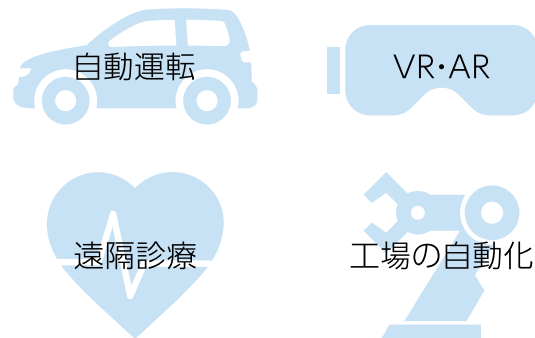
半導体製造装置の地域別市場予測



加えて、矢野経済研究所は「2025年には次世代移動通信システム『5G』サービスの契約数が世界合計で41億件にのぼる見通しだ」と発表しました。すでに米国や韓国などでは商用化が始まり、日本でも2020年春ごろから本格的にサービスが始まる予定ですが、2025年には中国が世界市場の約3分の1を占める15億件、米国は4億件、EU(欧州連合)は8億件に達する見込みです*。こうした動きを受け、半導体製造装置メーカー各社は中国のニーズに応えるべく輸出を進めています。

※ (株)矢野経済研究所「5G(第5世代移動体通信システム)の世界市場に関する調査(2019年)」

5Gで変化する分野の例



5Gの実用化によって、ネットワークでつながる機器が飛躍的に増加

Q ▶ イノテックの事業戦略は？

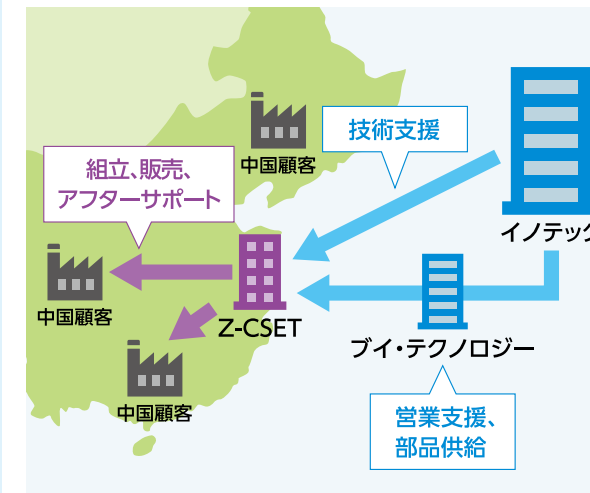
A ▶ テストソリューション事業を成長ドライバーに海外顧客の獲得を目指します。

半導体市場の成長が見込まれている中国を中心に、海外市場の開拓を図っていきます。当社の主要ビジネスであるテストソリューション事業を中国市場へ展開させることは、中長期的な成長を実現するための重要事項と考えています。すでにフラットパネルディスプレイ用の製造装置や検査装置を中心に中国市場で事業展開を進めるブイ・テクノロジーと事業提携をしており、同社と中国現地企業との合併会社であるZ-CSETに資本参加しています。Z-CSETを通じてテスター

の組立、販売、アフターサポートをしていく予定です。

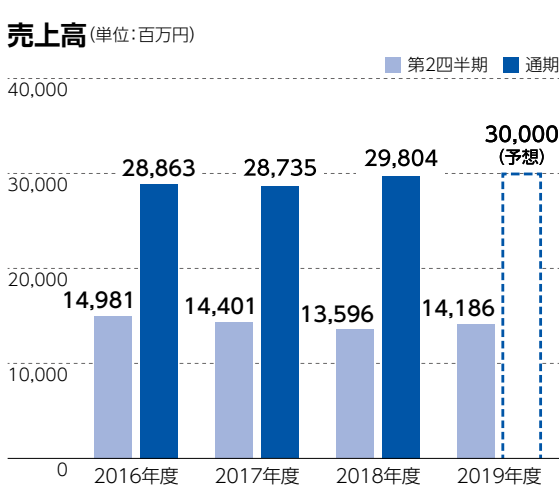
また、2014年10月に子会社化したSTArは、高い耐久性が求められるパワー半導体向けや高速処理が要求される光関連デバイスのテストソリューションにおいて高度な技術力を有していますが、本社を置く台湾以外に中国向け販売が伸びており、引き続き中国を中心にした事業拡大が期待できます。今後さらに先端技術向けに開発投資を行い、テスター分野で存在感を高めていきます。

イノテックグループの事業展開

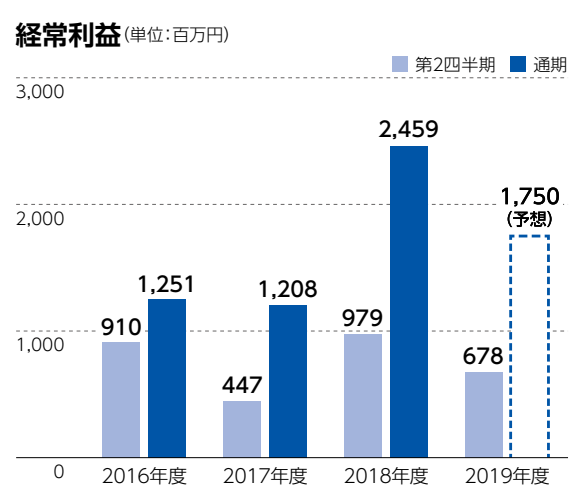


Z-CSETが入居する「海寧半導体周辺産業パーク」(浙江省)。建物面積55,800㎡のうち15,000㎡を半導体関連製造装置の開発、製造に使用。2020年1月完成予定。

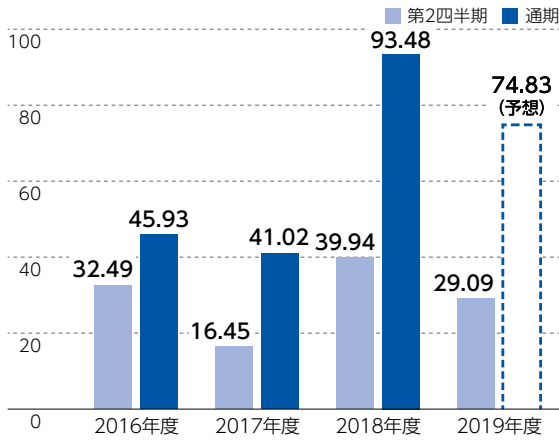
売上高 **141**億円 (前年同期比4.3%増)



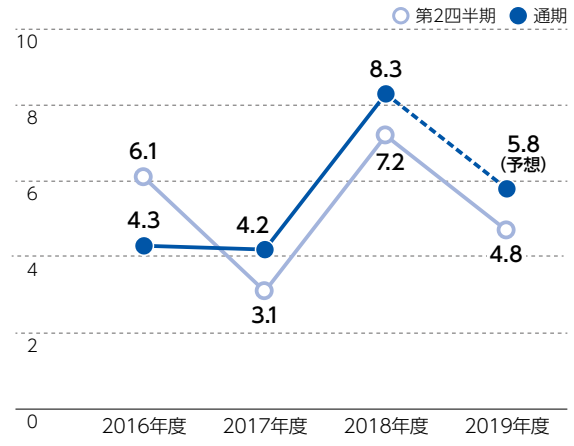
経常利益 **6**億円 (前年同期比30.7%減)



1株当たり当期純利益 (単位:円)

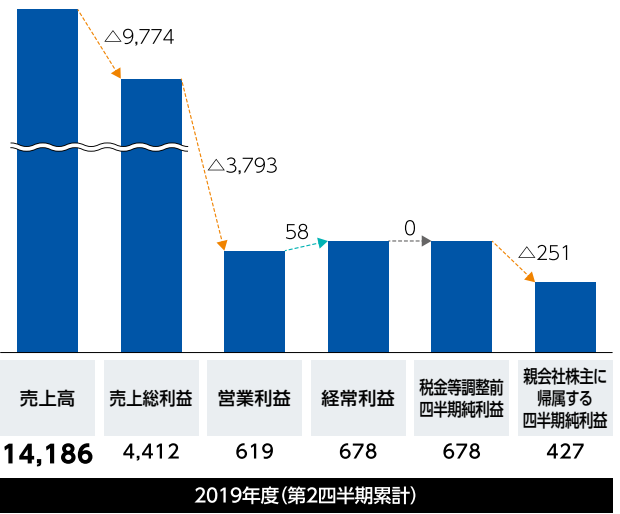
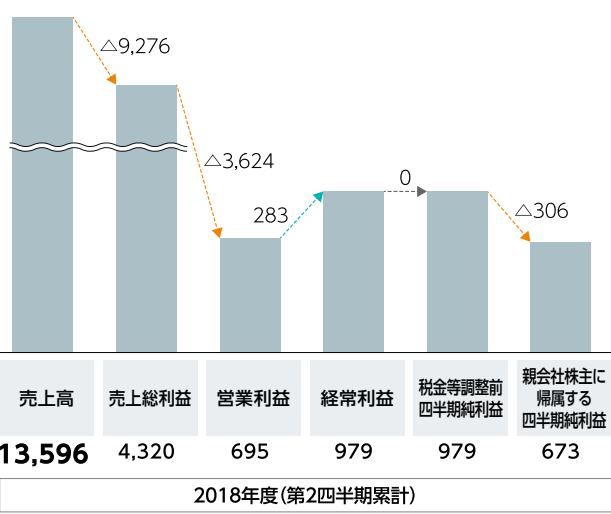


売上高経常利益率 (単位:%)



◆ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)



① 四半期連結損益計算書のポイント

当第2四半期連結累計期間の業績は、車載や社会インフラ向けの組込み関連製品が堅調に推移した一方、半導体市況悪化の影響により自社製テスターが低迷した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億27百万円となりました。主な事業の概況は、次のとおりです。

- 自社製テスターは、半導体市況の悪化の影響により大幅減収。
- EDAソフトウェアは、新規顧客開拓や新規製品の販売が順調に推移したことにより増収。
- 自社製 CPU ボードなどの組込みシステムは、社会インフラ向けが好調に推移したことにより増収。
- ガイオ・テクノロジーは、自動車関連の開発需要に支えられ引き続き堅調に推移。
- STArは、信頼性評価装置販売が堅調だったことに加え、プローブカード販売も伸長したことにより増収。
- アイティアアクセスは、新規事業のクラウド決済システムの販売が増加したことにより増収。
- レグラスは、自社製 AI カメラシステム関連などの受託開発が堅調に推移したことにより増収。
- 三栄ハイテックスは、主力顧客の需要低迷に代わる受注は確保したものの収益性が悪化。

(単位:百万円)

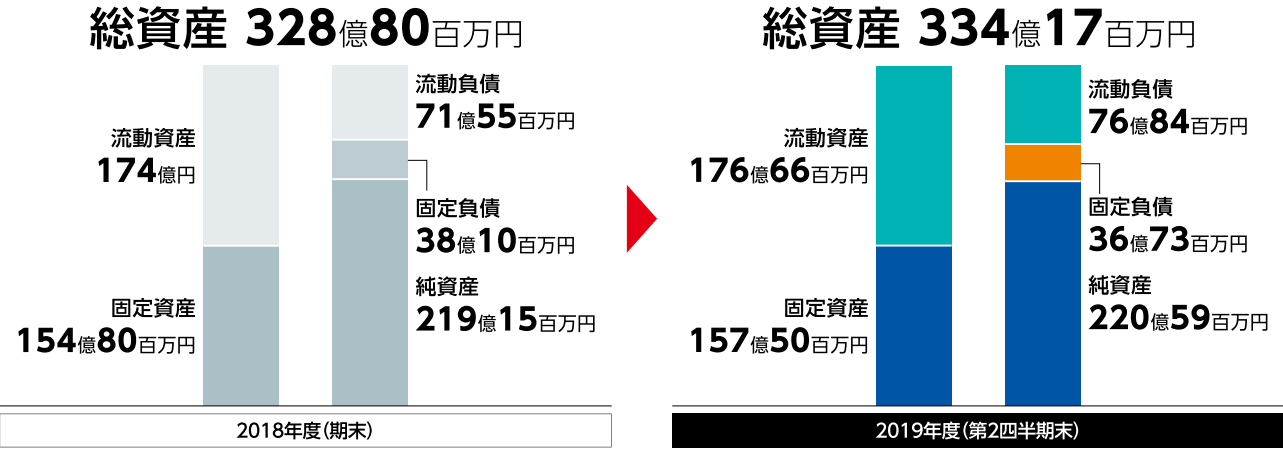
科目	前第2四半期累計 2018年4月1日～ 2018年9月30日	当第2四半期累計 2019年4月1日～ 2019年9月30日
売上高	13,596	14,186
売上原価	9,276	9,774
売上総利益	4,320	4,412
販売費及び一般管理費	3,624	3,793
営業利益	695	619
営業外収益	465	273
営業外費用	182	214
経常利益	979	678
特別利益	0*	0*
税金等調整前四半期純利益	979	678
四半期純利益	710	463
非支配株主に帰属する四半期純利益	36	35
親会社株主に帰属する四半期純利益	673	427

※ 百万円未満のため0にしています。

連結財務諸表(要旨)

◆ 連結貸借対照表

(2019年9月30日現在)



①総資産のポイント

当第2四半期末の総資産は、334億17百万円となり、前期末に比べ5億36百万円増加いたしました。これは、現金及び預金が増加したことなどによるものです。

①負債のポイント

当第2四半期末の負債は、113億57百万円となり、前期末に比べ3億92百万円増加いたしました。これは、借入金や未払法人税等が減少したものの、前受金が増加したことなどによるものです。

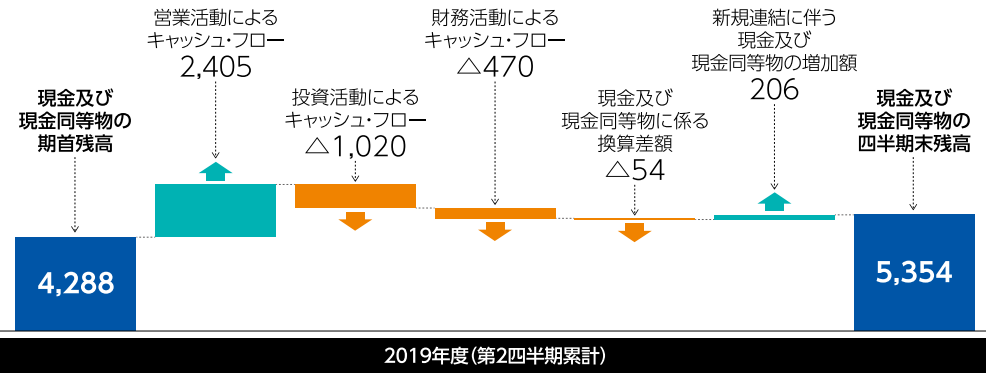
①純資産のポイント

当第2四半期末の純資産は、220億59百万円となり、前期末に比べ1億43百万円増加いたしました。これは、主に利益剰余金が増加したことによるものです。
この結果、自己資本比率は63.3%となり、前期末に比べ0.6ポイント低下いたしました。

◆ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

(2019年4月1日～2019年9月30日)



①四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、53億54百万円となり、当期首残高に比べて10億66百万円増加しました。これは、投資活動によって10億20百万円、財務活動によって4億70百万円をそれぞれ使用したものの、営業活動によって24億5百万円を得たためであります。なお、非連結子会社の新規連結子会社化によって、現金同等物が2億6百万円増加しております。

株式の状況(2019年9月30日現在)

◆ 株式の状況

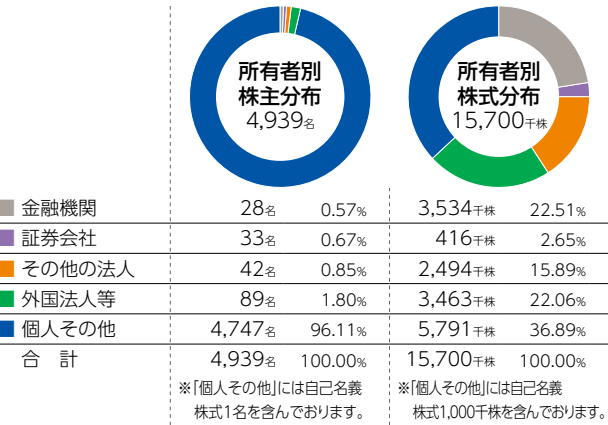
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式の総数	15,700,000株
株主数	4,939名

◆ 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本投資株式会社	1,656	11.27
KGI ASIA LIMITED-CLIENT ACCOUNT	700	4.76
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	586	3.99
株式会社南青山不動産	553	3.77
CADENCE TECHNOLOGY LIMITED	456	3.10
株式会社みずほ銀行	420	2.86
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	387	2.63
株式会社三井住友銀行	320	2.18
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	296	2.01
第一生命保険株式会社	280	1.90

持株比率は自己株式1,000千株を控除して計算しております。

◆ 所有者別株主分布・所有者別株式分布



※ 本報告書の記載金額および数量は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。また、比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

会社概要(2019年9月30日現在)

◆ 会社概要

商号	イノテック株式会社 INNOTECH CORPORATION
設立	1987(昭和62)年1月5日
資本金	105億17百万円
従業員数	連結 1,373人 個別 205人
所在地	本社／物流センター 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号 大阪支社 大阪市中央区南本町二丁目6番12号 サンマリオンNBFタワー16階
主なグループ企業	三栄ハイテックス株式会社 ガイオ・テクノロジー株式会社 アイティアクセス株式会社 株式会社レグラス STAr Technologies, Inc. INNOTECH FRONTIER, Inc.
主な取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三井住友銀行 株式会社北陸銀行 三井住友信託銀行株式会社 株式会社横浜銀行 株式会社三菱UFJ銀行

◆ 役員

(2019年9月30日現在)

取締役会長	澄田 誠	取締役	安生 一郎
代表取締役社長	小野 敏彦	取締役	坂 篤郎
代表取締役専務	大塚 信行	常勤監査役	加藤 功
取締役	鍋木 祥介	常勤監査役	中越 健介
取締役	高橋 尚	監査役	田中 伸男
取締役	棚橋 祥紀	監査役	栗崎 由子
取締役	劉 俊良		

※1 安生一郎および坂篤郎は、社外取締役であります。
※2 加藤功、田中伸男、および栗崎由子は、社外監査役であります。
※3 安生一郎、坂篤郎、加藤功、田中伸男、および栗崎由子は、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

◆株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当 毎年3月31日
	中間配当 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して 定めた日
単元株式数	100株
【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】	
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。 証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。	
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/ index.html
【特別口座について】	
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更などのお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。	
公告方法	当社のホームページに掲載する。ただし当社ホームページにて公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 https://www.innotech.co.jp/
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部



本社：〒222-8580 横浜市港北区新横浜三丁目17番6号
Tel：045-474-9000(代) Fax：045-474-9089
<https://www.innotech.co.jp/>

IRサイトのご案内

<https://www.innotech.co.jp/ir/>

イノテックは、株主の皆様とのコミュニケーションの一環として、IRサイトを開設しています。このサイトでは、業績・財務データや経営ビジョン・方針などを報告するとともに、「個人投資家の皆様へ」と題したコーナーを設け、当社のビジネスを分かりやすく説明しています。ぜひ、アクセスいただくとともに、ご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています

